



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 土本、濱下

(電話) 06-6949-6435

令和6年10月22日

内航船員の確保・育成対策 大阪市立中野小学校にて出前講座を実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業です。これを支える船員は、業界全体として若年層が増加傾向にあるものの高齢化は著しく、将来における担い手不足が生じないように十分な数の船員の確保が必要とされております。

これを受け、国土交通省では、内航船員の確保育成施策を推進しており、近畿運輸局においては、近畿内航船員対策協議会と連携して、若年船員の確保に向けて各種事業を実施しています。

今般、“大阪市立中野小学校”において、出前講座を実施しましたので、お知らせいたします。

実施日： 令和6年10月16日（水）

対象者： 大阪市立中野小学校（5年生 74名）

講師： 近畿内航船員対策協議会 白石 紗苗 氏

講義内容： 海運の重要性と船員の仕事について

配布パンフレット等：「船の仕事ってなに？」（日本内航海運組合総連合会）



「C to Sea プロジェクト」
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！

海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

大阪市立中野小学校で出前講座を実施しました！

近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会（会長：山本一人 三興海運(株)代表取締役会長）では、内航の若年船員不足に対する施策の一つとして、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子どもたちの興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢として捉えてもらうことなどを目的に「出前講座」を実施しています。

今般、令和6年10月16日（水）、大阪市立中野小学校において、「海運の重要性と船員の仕事について」をテーマとした出前講座を実施し、5年生74名が参加しました。



当日は、近畿内航船員対策協議会の構成員である白石海運（株）の白石取締役を講師として、日頃、船員に接する機会の少ない生徒に、「海運」がなぜ重要か、「船員」はどのような仕事をしているかについて、パワーポイントだけでなく、講師手作りのパネルや、船の形をしたプラスチック製組み立てブロック玩具を用いて、わかりやすく説明を行いました。

講座では、内航海運は、船で国内の港から港へ荷物を運ぶことであり、内航船は国内貨物の4割の輸送を担っており、そのうちの8割が産業基礎資材（石油製品等）であることを伝え、海運及び船員の仕事が日常生活を支える非常に重要な役割を担っていることを伝えました。



また、講座は、子どもたちが積極的に参加できるように、「なぜ重い船が浮くのか」「バナナ専用船の他に何の専用船があるか」「日本の輸入で上位のものは何があるか」「海賊の撃退方法は何か」等、クイズを交えながら行われ、クイズが出題されるたびにたくさん子ども達から手が挙がり、賑やかな雰囲気の中で講座が進んでいきました。



さらに、なかなか見ることができない船の中の居住スペースについて紹介された際には、子どもたちが興味津々で話を聞いていました。

講師から、「世の中には色々な仕事がある。身の回りにあるものには、いつも興味を持ってほしい。自分がしたい仕事を見つけたら、どうすればその仕事に就くことができるのかを考えて、調べてほしい。」「船員になるには、船員になるための専門の学校がある。今回の話をきっかけに船員という職業に興味を持ってほしい。」とメッセージを送りました。

生徒からの質問は、「船を乗せる船はあるか。」「輸送船に緊急用のボートはあるか。」「日本は輸入大国だが戦争の影響はあるか。」「1か月や2か月船で働いた場合、休みはどうなっているか。」といった色々なものがあり、時間の許す限り講師が丁寧に回答しました。また、参加したほとんどの生徒から、船に興味を持ったと手が挙がり、大盛況で講座を終えることが出来ました。



近畿運輸局及び近畿内航船員対策協議会では、出前講座が生徒の職業観の形成につながることを期待するとともに、将来の職業選択にあたり「船員」の仕事が選択肢の一つとなるよう、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を引き続き積極的に行いたいと考えています。

(近畿運輸局 海事振興部 船員労政課)